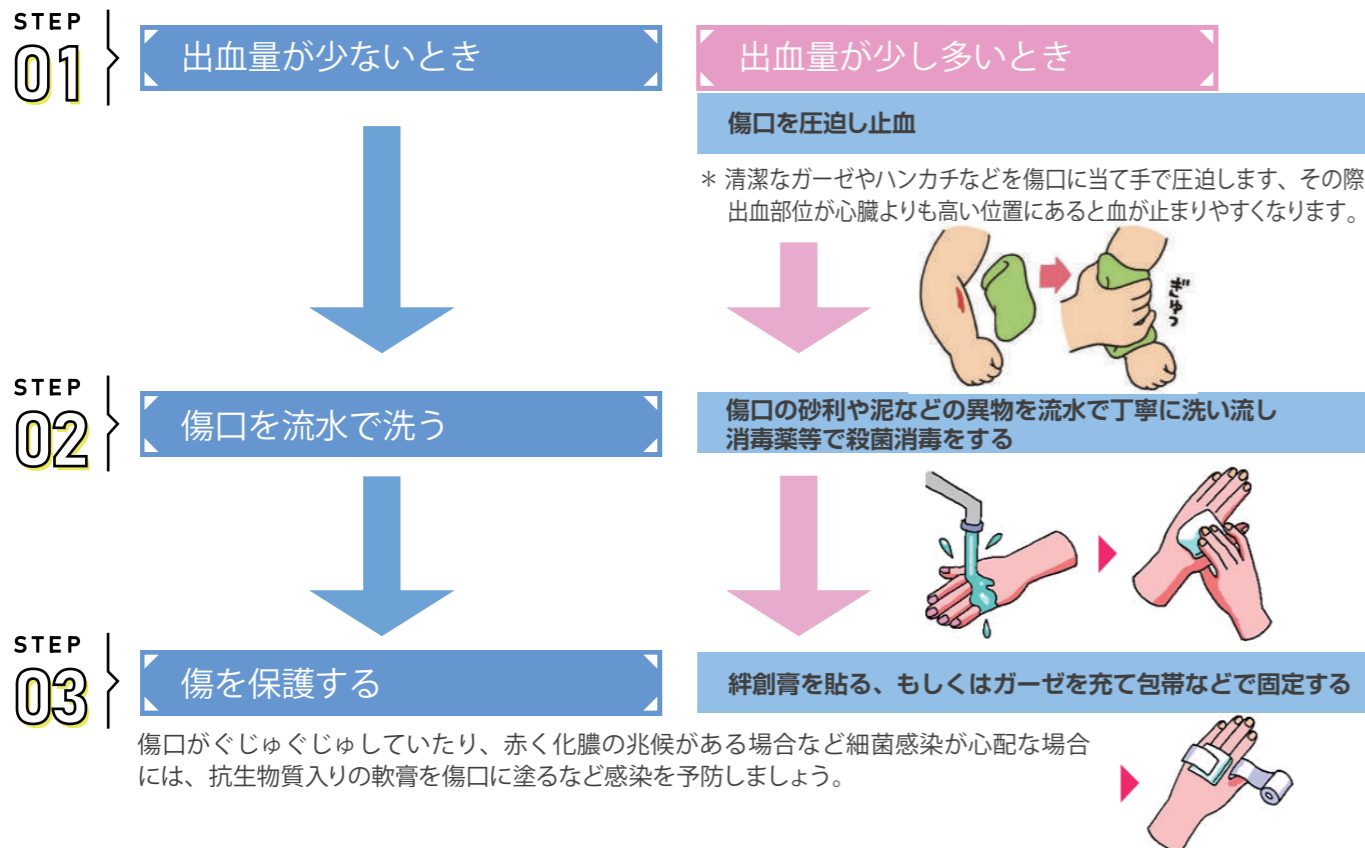


すり傷 切り傷の適切な対処方法

～正しい初期手当で化膿を防ぐ～

日常生活の中で、年齢問わず起こり得る怪我の一つとして、すり傷、切り傷があります。実際に怪我をしてしまったときに役立つ、すり傷と切り傷についての正しい知識、初期手当の方法をお伝えします。

正しい初期手当の方法



point !! >>>> 近年、傷口から出る浸出液を活かして傷の治りを早める「湿潤療法」が注目されていますが、湿潤療法に準じた絆創膏は異物が残っている汚い傷や動物などに咬まれた傷などに使用することで傷が重症化する方も少なくありません。湿潤療法が適さない場合もある為、自己判断で使用する場合は十分注意が必要です。

次の場合は細菌感染を引き起こす恐れがあるため病院受診を勧めます。迷ったときは病院を受診しましょう。

- 動物に咬まれたとき
- 汚染された場所でケガをしたとき
- 錆びた刃物、釘などでケガをしたとき
- 傷が深く出血が止まらないとき
- ただれや腫れがひどい場合
- 自宅で処置をしても改善されないとき(ケガをして5日間以上経過)

編集後記

今回の広報誌では移転後導入した再生医療について触れました。道内でも導入している医療機関は少なく是非皆様にも新しい治療の選択肢を知っていただければと思います。

当院では2022年秋頃に新築移転グランドオープン控えております。職員一同新しい病院で皆様をお迎えできることを楽しみにしております。



医療法人 **五輪橋整形外科病院**
Gorinbashi Orthopedic hospital
住所 札幌市南区川沿2条1丁目2番55号
TEL 011-571-2001 (代表)
URL <https://www.gorinbashi-seikei.com>

五輪橋整形通信 vol.05 2021冬

Gorinbashi Orthopedic hospital/PUBLIC RELATIONS MAGAZINE



CONTENTS

- お知らせ 当院の新型コロナ対策
- 特集 膝の痛みなどでお悩みはありませんか？再生医療のAPS療法について。
- コラム リハビリ体操／ハムストリングスのストレッチ
- コラム すり傷 切り傷の適切な対処方法

お知らせ 当院では**新型コロナウイルス感染対策**として下記の対策をおこなっております。

- 37.5度以上の発熱又はかぜの症状がある方のご来院をご遠慮させていただきます。
- 来院される方(患者様・付き添いの方など)には検温をしていただき必ずマスクの着用をお願いいたします。
- リハビリを実施する患者様へ不織布マスクの着用をお願いしております。
- 朝の開錠時間は8時15分から、昼は12時から13時半までロビー等の消毒の為、ロビーを閉鎖し、午後の開錠は13時30分からとします。
- ご面会の制限
- 外来・病室に熱交換換気ユニットの設置

膝の痛みなどでお悩みはありませんか？

当院では、膝の状態に応じて主に3つの治療をご提案させて頂いております。



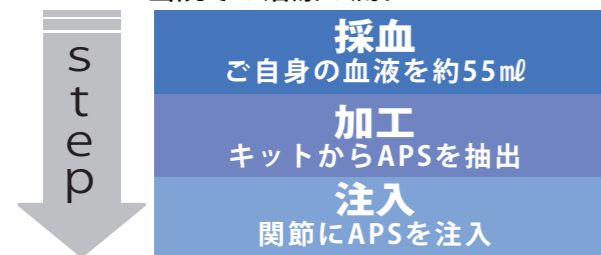
バイオセラピー(再生医療)とは？ 当院であなたにあった治療と一緒に探しましょう！

自分や他人の細胞や血液由来の成分を使い、病気の治療や傷んだ組織の修復を行う治療法です。

当院では、令和2年10月より再生医療 (PRP、APS療法) を提供できる施設として厚生労働省の認可を取得しました。

バイオセラピーは、入院の必要はありません。

当院での治療の流れ



APSの様子を写した写真



APS療法は、次世代PRPと呼ばれるAPSを用いた変形性関節症による膝の炎症や痛みに対する効果が期待される治療法になります。APS療法は患者自身の血液を使用するため、安全性が高いです。

APS療法費用について

※この治療は公的保険の対象ではありませんので、当院所定の施術料をお支払いいただきます。

関節内PRP (次世代PRP、APS)
片膝：330,000円 (税込み)

膝の痛みは人それぞれです。APSや手術以外でも注射 (ヒアルロン酸) や装具の使用で改善することもあります。当院では発症初期から手術後のフォローまで幅広く対応しています。

1人で悩まず、まずはお気軽にご相談ください。当院ホームページでも再生医療、手術などの情報がご確認頂けます。ご興味がある方はぜひ当院ホームページもご覧ください。



URL: <https://www.gorinbashi-seikei.com>

変形性膝関節症にAPS療法

膝疾患全体の治療強化

五輪橋整形外科

南区の五輪橋整形外科病院 (佐藤直一理事長、広瀬和哉院長・58床) は、変形性膝関節症の治療に、APS療法 (再生医療) を導入。従来の薬物療法に、新たな選択肢を加えることで、膝疾患全体の治療強化を図ることを目指している。

変形性膝関節症は、主に高齢により膝関節軟骨が摩耗・変性し、膝関節痛や日常生活の活動性低下をもたらす。

初期には消炎鎮痛薬、湿布、ヒアルロン酸注射など薬物による保存療法を実施。それでも効果が少なく、症状が増悪する場合は、膝の周囲の骨を切ることで、変形したO脚やX脚を修正する高位脛骨骨切り術、人工膝関節置換術といった手術療法を行う。

APS療法は、患者自身の血液を少量採取し、その血液を少量採取し、炎症を抑えるタンパク質と、軟骨の健康を守る成長因子を高濃度に抽出し、膝関節内に直接投与することで炎症や痛みの抑制・改善が期待できる。自身の血液を使用するため安全性が高く、身体への負担が少ない。

「膝関節症そのものを治す治療ではないが、痛みを軽減するには大きく寄与するため、患者のメリットが多いため」と佐藤理事長は語る。

同病院は膝疾患全体の治療の幅を広げ、膝関節置換術を進める。再生医療を取り入れたことにより、治療の幅を広げ、膝疾患治療全体の底上げを進める。

北海道医療新聞 令和3年4月30日発刊号にも掲載されました。

再生医療Q&A

Q.軟骨のすり減りや骨の変形を治せるのか？

A.炎症を抑えて痛みを軽くするのがAPS療法に期待されていることです。

Q.対象者は？

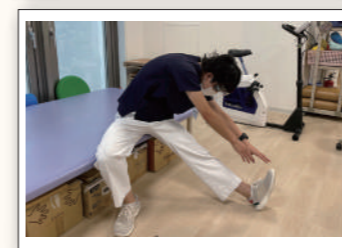
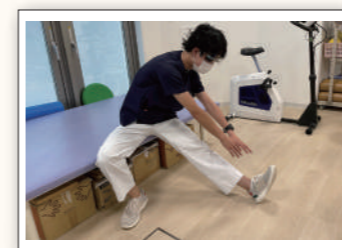
A. APS療法の効果が大きく期待できるのは、初期から進行期とされています。血液疾患、関節リウマチなど特殊な疾患で痛みが生じている場合も適用外となります。

Q.改善効果は？

A.一般的には2~3週間くらいから少しずつ現れ、効果の最大化は3~6か月後といわれています。また、効果を得られなかったという人も一定割合でいます。

Q.治療後は？

A.日常生活の制限はありませんが、1~3か月間は激しい運動は控えたほうが良いでしょう。治療後もリハビリや散歩といった運動習慣を身につけることが非常に重要です。



ハムストリングスは、太ももの裏にある筋肉です。ここでは、疲労がたまりやすく硬くなりやすい筋肉ともいわれています。

この筋肉を柔らかくすると腰痛の予防や、疲労回復効果があるといわれています。

まず写真のように片足を伸ばして座ります。そして伸ばしている足のつま先に向かってゆっくり両手を下ろしていきます。

太ももの裏側が伸びているのを感じると思えます。気持ちいい所で止めて、20秒ほど止めましょう。呼吸は止めないように注意です。そしてゆっくり戻しましょう。

腰や股関節に持病がある方は主治医に相談してくださいね！